

研究機関：広島大学

研究課題名	肺動脈カテーテルの留置方法およびカテーテル留置による合併症の検討
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科麻酔蘇生学 職名 教授 氏名 堤 保夫
研究期間	2020年9月3日（倫理委員会承認後）～2022年 3月31日
対象者	2010年4月から2020年4月の間に、広島大学病院手術部で手術した患者で、術前に胸部CTを撮影した患者および手術中に肺動脈カテーテルを挿入した患者さん。
意義・目的	心臓血管外科の手術では、術中の肺動脈圧や心機能をモニターするために肺動脈カテーテルを挿入します。肺動脈カテーテルは、通常、右内頸静脈から挿入され、上大静脈を経て、右心房、右心室、肺動脈を通過し、右肺動脈に留置されます。右肺動脈に到達するまでに、三尖弁、肺動脈弁を通過しなければならず、当初、足側に向かっていたカテーテルは、挿入中に、頭側に向きを変更しなければなりません。そのため、カテーテルがスムーズに留置できないこともあります。本研究は、スムーズに肺動脈カテーテルを挿入するために、術前のCTから、右内頸静脈にカテーテルを挿入する時の最適な留置方法を検討することとカテーテル留置による合併症の検討を目的としています。
方法	本研究は、すでに撮影されているCT画像および、麻酔記録情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は、身長・体重・性別、投与した薬剤やバイタルの推移、血液検査（手術の前後に必要な応じて行われている検査の検査値）、レントゲン・CTの画像情報、術式・手術時間・術後の合併症の有無、入院期間等です。（個人を特定可能な情報は解析に用いません）
共同研究機関	なし
試料・情報の管理責任者	広島大学大学院 医系科学研究科 麻酔蘇生学 教授 堤 保夫
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel：082-257-5267 広島大学病院麻酔科 職名 医科診療医 渡辺知幸